

告 辞

本日卒業の日を迎えられた学部卒業生の皆さん、誠におめでとうございます。神戸学院大学を代表して、心よりお祝いを申し上げます。皆さんが、神戸学院大学において積み重ねてこられた努力が実を結び、今日のこの日を迎えられたものと思います。そのひたむきな姿勢に惜しめない賛辞を送ります。

卒業生のご家族ならびに関係者の皆様にも、心よりお祝いを申し上げます。本日に至るまで学生の皆さんを支え続けてくださったことに対して、深く敬意を表したいと思えます。

卒業生の皆さんは、本日、神戸学院大学を卒業し、8万人にのぼる神戸学院大学同窓生の仲間入りをされます。皆さんは、神戸学院大学で多くのことを学び、様々な経験を重ね、その能力を高めるとともに、人間的にも着実に成長してこられました。今後はそれぞれの道を歩み、その培った能力を生かして、社会に貢献することが求められます。

そこで、皆さんにいくつかのアドバイスを申し上げます。

第一に、社会の荒波の中で、どんなに苦しい場面、つらい状況に遭遇しても、自分を信じてください。自分を信じて、プライドを奮い立たせて進む以外にないことが多いのです。結果を恐れて怯んでしまうのではなく、ここというときには覚悟を決めて進んでください。

第二に、とはいっても、謙虚さも忘れないでください。周囲の方々の助言、アドバイスには謙虚に耳を傾け、耳の痛い意見にも真剣に向き合ってください。最後は自らの決断に迫られても、様々な考えに接し、それらを吸収することで、自分の判断を研ぎ澄ますことができます。そして、そのような姿勢が周囲の信頼を生むことにもなります。

三つ目に、周りの目を気にして自制してしまい、自らの可能性にふたをするのではなく、自分が本当に納得できる道を選んで進んでください。自分からの「逃避」が後々の「後悔」を生み出す原因になります。たとえ期待したような結果がすぐには得られなくとも、納得のいくチャレンジこそが次へのエネルギーと知恵を生み出します。

最後に、自分が築いてきた人間関係を大切にしてください。自分を支えてくれる家族、苦しいときに頼りになる先輩や友人、厳しくも的確な指導をしてくれる上司や指導者、これらの人間関係の蓄積は大きな財産です。自らの能力を発揮する上での大きな力になります。時には、どのような人間関係を構築しているかが、その人の能力として評価される場合もあります。

以上が、社会へ旅立つ皆さんへの私からのアドバイスです。

さて、皆さんが今日巣立っていく神戸学院大学は、1966年に、建学の精神「真理愛好・個性尊重」の下、栄養学部だけの大学として創立されました。昨年創立50周年を迎え、次の50年に向けて歩み始めた現在では、2つのキャンパスに9学部・7研究科、1万人を超える学生数を擁する、神戸市内で最大規模の私立総合大学に発展しました。昨年6月に開催された大学創立50周年記念式典において、「未来50年—神戸学院大学の進むべき道筋」を発表し、本学が取り組むべき当面の重要課題を明らかにして、次の50年に向けて着実に歩み始めています。

阪神・淡路大震災から22年目を迎えた今年の1月には、NHKテレビ大阪放送局のニュースの震災特集で、被災した明石市立天文科学館から譲り受けた有瀬キャンパスの大時計が取り上げられ、震災を語り継ぐシンボルとしての意義が紹介されました。震源地に最も近かった総合大学として、本学が取り組んできた防災教育や社会貢献活動が注目されている証しであると思います。最近では、熊本地震の被災地支援活動や地元神戸の最大のイベントのひとつである神戸マラソンのサポート活動において、多数の本学学生ボランティアの皆さんとともに教育後援会や同窓会の方々、附属高等学校の皆さんも一緒になって、オール神戸学院で取り組んでいることは、社会からも高く評価されています。

神戸学院大学は、これからも、教育・研究・社会貢献のすべての面において社会から信頼される、神戸・兵庫を代表する存在価値の高い大学を目指します。そして、「学生の満足度の高い大学」「学生が成長を実感できる大学」であり続けることを目標として、日々前進していく所存です。

大学創立50周年という記念すべき節目に在学された皆さんが、伝統ある神戸学院大学の卒業生であることに「誇り」を持ち続け、社会の様々な分野で活躍されることを祈念いたします。卒業生は半世紀余りの本学の歴史にとって最高の宝であり、財産です。神戸学院大学は皆さんをこれからも応援し続けます。皆さん、今日からは卒業生として、神戸学院大学を力強く応援してください。

本日は、ご卒業、誠におめでとうございます。

2017年3月22日

神戸学院大学学長 佐藤雅美